ー国内動向ー

1　東京都･大阪市中央卸売市場の需給動向（令和7年6月）

【ポイント】

●6月の気象は、気温が、北・東・西日本でかなり高く、月平均気温は6月として、1898年以降最も高かった。降水量は、沖縄・奄美でかなり少なく、日照時間は、北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で、かなり多かった。
●東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は10万5930トン、前年同月比98.7%、価格は１キログラム当たり290円、同102.6%となった。
●大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は３万3347トン、前年同月比94.6%、価格は１キログラム当たり257円、同100.4%となった。
●昨年に続き、６月から猛暑に見舞われている。雪解けが昨年より一週間程遅く、東北・北海道産を中心に遅れており、市場では物不足感が強い。消費者の購入意欲は旺盛と報告されている。

（1）気象概況

上旬は、旬平均気温は、前半は東・西日本を中心に冷涼な空気に覆われやすかったが、中頃以降は暖かい空気が流れ込み、広い範囲で真夏日を観測したため、北･東日本と沖縄･奄美では高かった。旬間日照時間は、北日本太平洋側で多く、前線や湿った空気の影響で、雲りや雨天が多かった東日本および西日本日本海側では少なかった。旬降水量は、西日本から本州南岸に北上した梅雨前線に暖かく湿った空気が流れ込み、9日は鹿児島県で線状降水帯が発生し、記録的な大雨となったことから、西日本ではかなり多く、東日本では多かった。一方、沖縄・奄美では、後半には梅雨前線が本州付近に北上し、晴れた日が多かった。梅雨については、四国地方と九州北部地方では8日頃、東海地方、近畿地方、中国地方では9日頃、関東甲信地方と北陸地方では10日頃に梅雨入りし、沖縄地方では8日頃に梅雨明けしたとみられる（速報値）。

中旬は、旬平均気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすかったため、かなり高かった。16日から20日には東北地方から西日本にかけて各地で猛暑日を観測した。旬平均気温平年差は東日本で＋3.0℃、西日本で＋2.6℃となり、1946年の統計開始以降、6月中旬として東日本では1位、西日本では2013年と並び1位タイの高温となった。旬間日照時間は、旬の前半や後半は北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側では多かった。一方、旬の後半には、梅雨前線が日本海から北日本付近に北上し、太平洋高気圧に覆われて晴れた所が多く、東日本および西日本太平洋側、沖縄・奄美は多かった。旬降水量は、12日頃にかけて、梅雨前線に暖かく湿った空気が流れ込んだため、広い範囲でまとまった雨となり、大雨となった所もあった。そのため、東日本日本海側の旬降水量は多く、西日本太平洋側、沖縄・奄美では少なかった。東北地方は14日頃に梅雨入りし、奄美地方では19日頃に梅雨明けしたとみられる（速報値）。

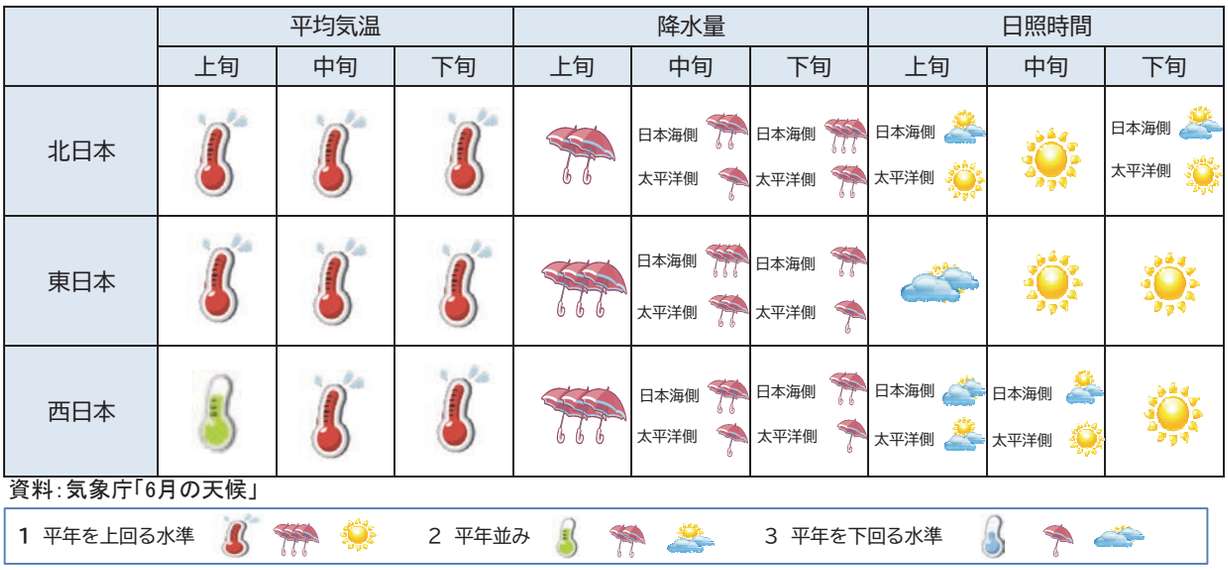
下旬は、低気圧や梅雨前線および湿った空気の影響で曇りや雨の日もあったが、太平洋高気圧が本州付近に張り出しやすかったことから、太平洋側を中心にこの時期としては晴れの日が多かった。旬平均気温は、全国的にかなり高く、特に北日本では、旬平均気温平年差が＋4.7℃と、1946年の統計開始以降、6月下旬として記録的な高温となった。30日は、全国の914の観測地点のうち、118地点で猛暑日となった。旬降水量は、晴れの日が多かったため、西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と沖縄・奄美では少なかった。一方、低気圧の影響を受けた北日本日本海側では、かなり多かった。旬間日照時間は、

梅雨前線の活動が弱く、太平洋高気圧に覆われやすかった北・東日本太平洋側と西日本では、かなり多く、東日本日本海側と沖縄･奄美で多かった。

九州地方、四国地方、中国地方と近畿地方では、27日頃に梅雨明けしたとみられる（速報値）。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

図１　気象概況



資料：気象庁「6月の天候」

（2）東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は10万5930トン、前年同月比98.7%、価格は１キログラム当たり290円、同102.6%となった（表１）。

表１　東京都中央卸売市場の動向（６月速報）

品　目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格（円/kg）の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	105,930	98.7	91.2	290	102.6	108.2	286	296	287
だいこん	5,774	88.5	86.6	113	123.9	113.8	120	120	101
にんじん	4,843	92.4	82.6	184	81.5	113.9	180	190	182
はくさい	5,395	98.4	85.6	65	94.9	94.5	63	68	65
キャベツ類	13,745	95.1	88.3	72	85.7	81.7	69	69	78
ほうれんそう	1,261	95.9	95.2	487	105.4	103.7	481	468	520
ねぎ	3,280	95.8	91.6	396	107.0	97.5	397	413	378
レタス類	8,047	106.0	100.7	132	104.4	97.6	124	137	134
きゅうり	6,304	96.8	89.1	326	144.4	127.1	324	317	336
なす	2,651	88.6	83.9	428	109.6	111.7	435	423	427
トマト	6,591	93.5	88.4	343	102.3	112.0	335	358	333
ピーマン	2,051	87.7	85.6	546	119.7	117.9	462	584	591
さといも	68	70.9	53.9	688	124.1	131.2	770	825	536
ばれいしょ	7,206	134.3	104.7	165	52.8	81.7	185	167	131
たまねぎ	8,180	109.6	91.4	141	87.0	108.3	150	141	130

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」
注１：平年比は過去５カ年平均との比較。
注２：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの９市場のデータである。

根菜類は、にんじんの価格は、堅調な動きとなり、大幅に高値で推移した前年を２割近く下回り、平年を１割以上上回った（図２）。

葉茎菜類は、キャベツの価格は、下旬に底上げとなったものの、前年を１割以上下回り、平年を２割近く下回った（図３）。

果菜類は、きゅうりの価格は、月間を通して堅調な動きとなり、安値で推移した前年を４割以上上回り、平年を３割近く上回った（図４）。

土物類は、ばれいしょの価格は、暴騰した前年を５割近く下回り、平年を２割近く下回った（図５）。

なお、品目別の詳細については表２の通り。

図２　にんじんの入荷量と卸売価格の推移

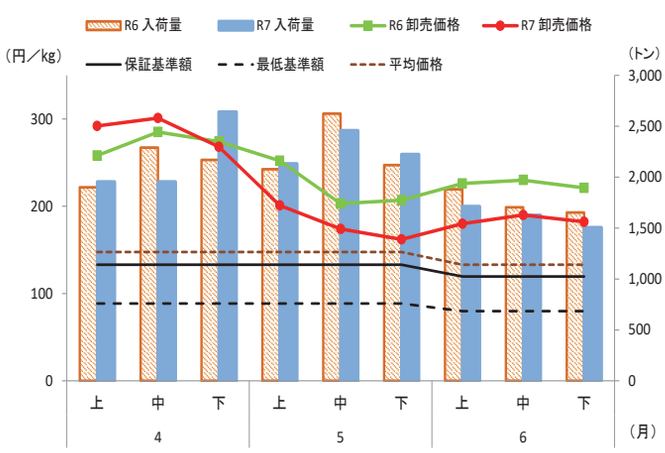


図３　キャベツの入荷量と卸売価格の推移

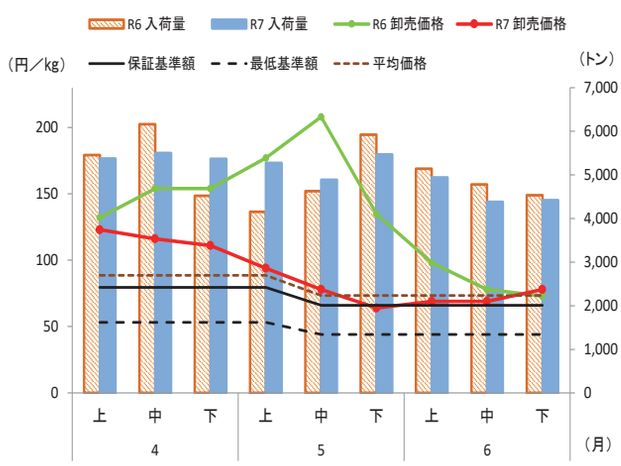


図４　きゅうりの入荷量と卸売価格の推移

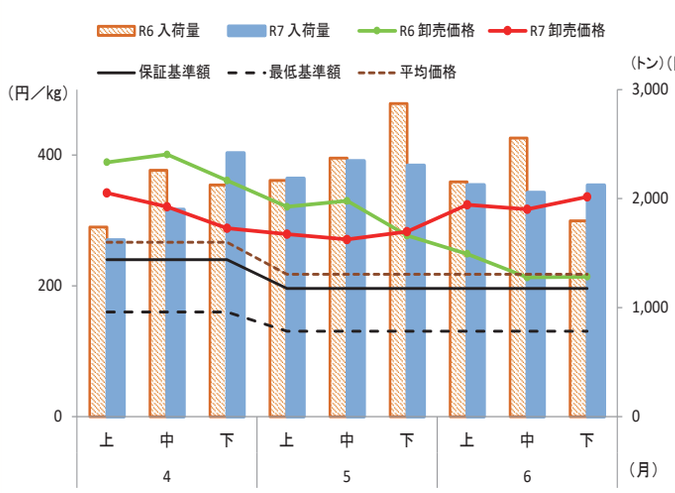
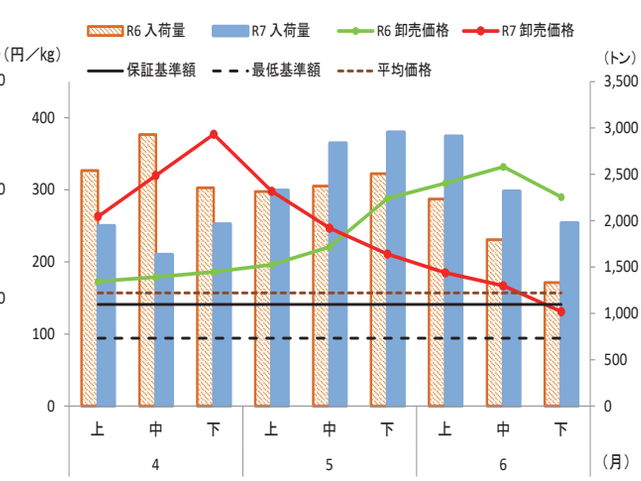


図５　ばれいしょの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

※１　卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。

※２　平均価格とは、事業における過去6カ年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数等を加味した価格である。

※３　事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表２　品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	6月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん	青森産を中心に千葉産などの入荷があった。青森産の作付面積は前年並みで、春先の低温や5月の干ばつの影響により生育はばらつき、やや肥大不足で、病虫害も散見される。千葉産の作付面積は前年並みで、気温の上昇と適度な降雨により、終盤だが残量はあった。総入荷量は前年、平年とも1割以上下回った。 価格は下旬にやや落ち着いたものの、やや安めに推移した前年を2割以上上回り、平年を1割以上上回った。
	にんじん	千葉産中心の入荷となった。作付面積は前年をやや下回る。播種（はしゅ）期の乾燥の影響で、遅れが散見されたもののおおむね順調である。下旬に北海道産、青森産が出荷開始となったが、低温の影響によりやや遅れている。輸入の中国産は前年を3割以上下回っている。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度下回り、平年を2割近く下回った。 価格は堅調な動きとなり、大幅な高値で推移した前年を2割近く下回り、平年を1割以上上回った。
葉茎菜類	はくさい	長野産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、一部で病害の発生が見られるが、天候に恵まれ生育はおおむね順調である。作の終盤で、6月下旬にはほぼ切り上がった。総入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、平年を1割以上下回った。 価格は月間を通して大きな動きはなく、前年、平年ともやや下回った。
	キャベツ類	千葉産を中心に茨城産、群馬産などの入荷があった。千葉産の作付面積は前年並みで、定植遅れから遅延傾向にあった生育は、天候に恵まれ回復しおおむね順調であるが、虫害の発生が散見される。茨城産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調もやや干ばつの影響がある。群馬産の作付面積は前年並みで、生育に若干の遅延が見られたものの回復している。一部で降霜（こうそう）や低温の影響を受けたが、出荷に影響はない。総入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を1割以上下回った。 価格は下旬に底上げとなったものの、前年を1割以上下回り、平年を2割近く下回った。
	ほうれんそう	群馬産を中心に茨城産、栃木産などの入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、3月の低温多雨の影響による生育の停滞が散見された生育状況からは回復し順調である。茨城産の作付面積は前年並みで、高温の影響により品質低下が散見される。栃木産の作付面積は前年並みで、降雪や気温の低下の影響により生育はやや遅延傾向にある。総入荷量は平年並みであった前年をやや下回った。 品質低下が見られた平坦地の残量が、下旬に向け減少したことから、価格は上がり、前年、平年ともやや上回った。
	ねぎ	茨城産を中心に千葉産などの入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、トンネル物から露地物に代わり、サイズは2L中心からLM中心となった。降雨と気温上昇による品質低下が散見される。千葉産の作付面積は前年並みで、5月以降の気温上昇と適度な降雨により生育は順調である。後続の東北産や北海道産は、7～10日ほど生育遅延している。総入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を1割近く下回った。 価格は、中旬の特売需要でやや持ち直したものの、下旬の気温上昇による低下傾向で、動きが激しい展開となり、やや安値で推移した前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに下回った。
	レタス類	長野産中心に群馬産の入荷があった。長野産の作付面積は前年並みで、干ばつの影響により生育にばらつきが見られたが、天候に恵まれやや早まっている。一部で散見された病害も落ち着き、おおむね順調である。群馬産の作付面積は前年並みで、生育初期の低温の影響は解消され、おおむね順調である。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに上回った。 価格は、順調な入荷によりあまり変動せず、やや安値で推移した前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。
果菜類	きゅうり	埼玉産、群馬産を中心に福島産などの入荷があった。埼玉産の作付面積は前年並みだが、病虫害が多く、特にうどんこ病、アブラムシの発生が多い。若干の遅れが見られた生育は、回復傾向である。群馬産の作付面積は前年並みで、順調な出荷が続いていたが、5月中旬以降の天候不順と夜温の低下により、数量は落ち着いている。福島産の作付面積は前年並みで、半促成作は4～5月上旬の低温と日照不足により生育が停滞している。露地物も日照不足により活着に遅れがあり、虫害の発生が散見される。総入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を1割強下回った。 価格は、月間を通して堅調な動きとなり、安値で推移した前年を4割以上上回り、平年を3割近く上回った。
	なす	高知産を中心に群馬産などの入荷があった。高知産の作付面積は前年並みで、4月下旬の出荷増により、やや成り疲れにより樹勢が低下している。加えて5月の曇雨天により樹勢が回復しない。うどんこ病などの病害も散見される。群馬産の作付面積は前年をやや上回っているが、曇雨天や夜温の低下の影響により生育は遅延し、虫害が散見されている。総入荷量は少なかった前年を1割以上下回り、平年を2割近く下回った。 価格は月間を通して堅調な動きとなり、前年を1割弱上回り、平年を1割以上上回った。
	トマト	熊本産、栃木産を中心に愛知産などの入荷があった。熊本産の作付面積は前年並みで、夜温の低下の影響により若干生育停滞が散見されるが、おおむね順調である。出荷終了となる中旬いっぱいまで潤沢な入荷である。栃木産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調で肥大も良好である。愛知産の作付面積は前年並みで、病虫害の発生が散見されるものの、おおむね順調である。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度下回り、平年を1割以上下回った。 価格は高値で推移した前年をわずかに上回り、平年を1割以上上回った。

	ピーマン	茨城産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、天候不順の影響によりやや生育は遅延したものの、おおむね順調である。後続の岩手産は日照不足のほか、低温・強風などの影響もあり、7～10日ほど生育が遅延している。加えて病虫害も散見される。総入荷量はやや少なめに推移した前年、また平年ともを1割以上下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、西南暖地が終了に向かった中旬以降に上がり、前年を2割弱上回り、平年を2割近く回った。
土物類	さといも	鹿児島産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、中旬まで降雨の影響で作業が進まず数量は少なかったが、梅雨明けした下旬からは増加した。輸入の中国産については、前年を2割近く上回った。総入荷量は大幅に少なかった前年を3割ほど下回り、平年を5割近く下回った。 価格は、絶対量不足から上・中旬は高騰したが、数量が出回った下旬に下がり、高値で推移した前年を2割以上上回り、平年を3割以上上回った。
	ばれいしょ	長崎産を中心に静岡産の入荷があった。長崎産の作付面積は前年並みで、昨年内の植え付け分は12月の乾燥やその後の低温・干ばつや霜害（そうがい）の影響により、生育遅延が見られたが、年明け以降の植え付け分は、おおむね順調であった。静岡産の作付面積は前年並みで、やや小玉傾向も生育は順調である。総入荷量は少なかった前年を3割以上上回り、平年をやや上回った。 価格は、暴騰した前年を5割近く下回り、平年を2割近く下回った。
	たまねぎ	佐賀産を中心に兵庫産、香川産などの入荷があった。佐賀産の作付面積は前年並みで、病害虫の発生は少ないが、定植後の低温･乾燥の影響による活着不良などで、生育が遅延している。兵庫産の作付面積は前年並みで、病害虫の発生は少ない。適度な降雨と安定した気温により、生育はおおむね順調で大玉傾向である。香川産の作付面積は前年並みで、生育は気温の上昇とともに回復傾向も、べと病の発生が散見される。輸入の中国産は前年を4割以上下回ったが、ニュージーランド産が大幅に増加している。総入荷量は、少なかった前年を1割近く上回り、平年を1割近く下回った。 価格は、高値で推移した前年を1割以上下回り、平年をかなりの程度上回った。

（執筆者：東京シティ青果株式会社　平田　実）

（3）大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は３万3347トン、前年同月比94.6%、価格は１キログラム当たり257円、同100.4%となった（表３）。

品目別の詳細については表４の通り。

表３　大阪市中央卸売市場の動向（６月速報）

品　目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格（円/kg）の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	33,347	94.6	91.3	257	100.4	107.3	251	260	260
だいこん	1,807	97.5	82.6	121	115.2	113.6	132	130	107
にんじん	2,183	97.5	85.6	150	67.7	102.9	136	160	153
はくさい	3,237	103.1	102.2	74	95.3	94.8	76	78	70
キャベツ類	3,929	82.1	90.5	78	91.7	82.7	71	73	91
ほうれんそう	414	97.2	91.0	655	108.5	109.6	640	632	708
ねぎ	666	112.5	121.7	450	99.9	92.6	440	465	445
レタス類	2,001	101.4	91.5	133	106.3	97.9	124	139	135
きゅうり	1,349	86.7	81.9	326	141.9	130.0	317	312	347
なす	1,127	96.0	98.5	372	101.5	108.6	367	380	367
トマト	2,034	98.8	100.2	341	99.1	108.6	327	340	351
ピーマン	597	85.7	99.9	465	120.4	118.6	353	538	517
さといも	29	159.0	114.5	778	123.4	137.0	1,009	884	521
ばれいしょ	2,516	121.4	96.5	140	48.5	76.4	166	138	100
たまねぎ	3,516	84.5	86.8	138	83.8	105.0	145	138	128

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注１：平年比は過去5カ年平均との比較。
注２：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

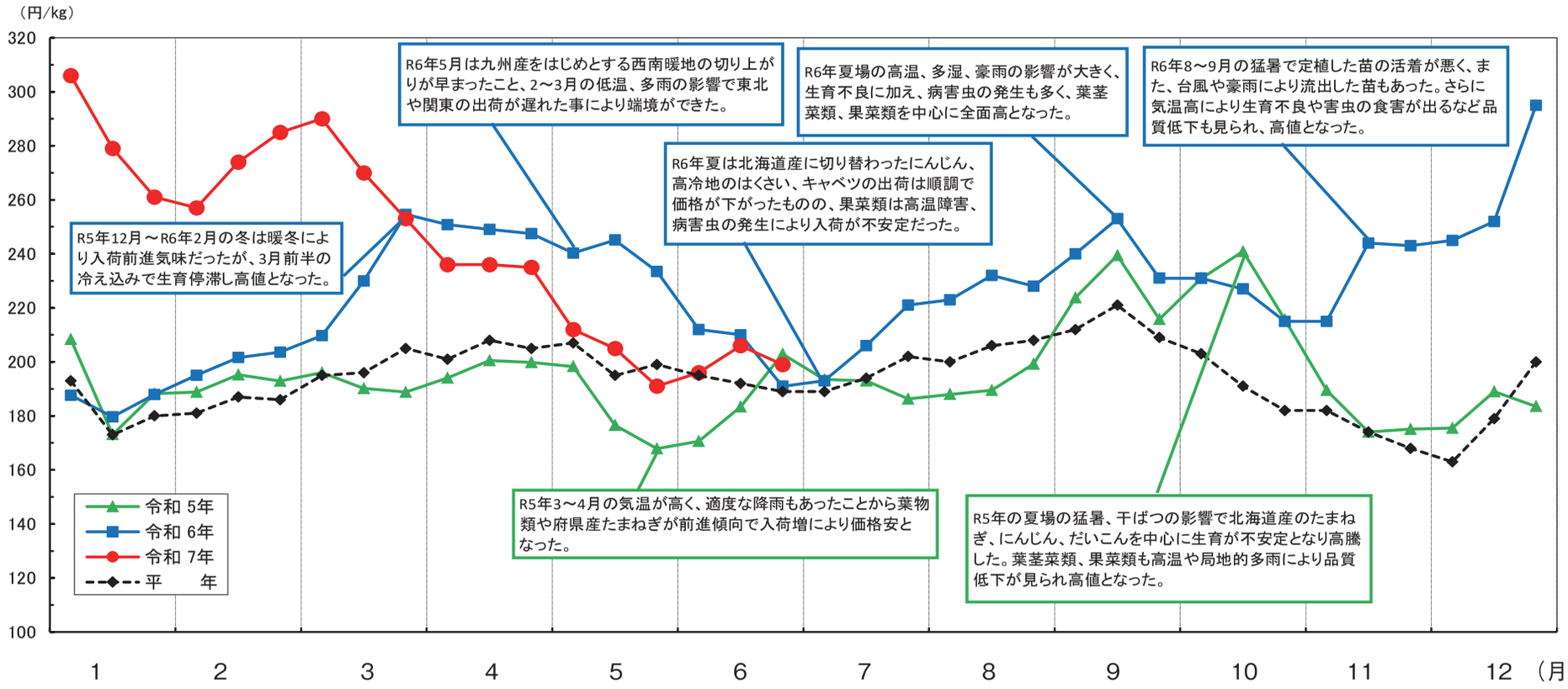
表４　品目別入荷量・価格の動向（大阪市中央卸売市場）

類別	品目	6月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん	青森産と北海道産が主体となり、下旬からは岐阜産の入荷もあった。上旬には鹿児島産などの残量入荷もあった。青森産は全旬を通じて潤沢（じゅんたく）な入荷が続き、旬を追うごとに増加し、月間では前年を大きく上回った。北海道産と和歌山産は、気温高と降雨の影響などにより、全旬とも入荷量は伸び悩んだ。月間全体では前年をわずかに下回り、平年を大幅に下回った。 品質は良く、価格は安定した高値で推移し、月間では前年、平年ともかなり大きく上回った。
	にんじん	上旬までは長崎産が、中旬以降は和歌山産が中心となる入荷であった。気温高と降雨の影響で、産地出荷量が安定せず、品質低下が多く見られ、中旬以降の入荷量が伸びなかった。特に長崎産は、全旬を通じて入荷量が少なく不安定で、月間では前年を大幅に下回った。月間全体の入荷量は、前年をわずかに下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、入荷量が少なかったものの、品質低下品が多かったため伸び悩んだ。高値であった前年を3割以上下回り、平年をわずかに上回った。
葉茎菜類	はくさい	長野産が中心となる入荷であった。県内各産地とも潤沢な出荷を続け、全旬を通して安定した入荷となり、月間の入荷量は前年を大幅に上回った。和歌山産や茨城産が前進傾向で、切り上がりが早くほとんど入荷がなかった影響もあり、月間全体としては前年をやや上回り、平年をわずかに上回った。 価格は、気温が高く需要が高まらなかったことで伸び悩んだ。月間では前年、平年ともやや下回った。
	キャベツ類	上・中旬は茨城産と愛知産が主体となり、下旬からは後続の長野産の入荷が中心となった。茨城産、愛知産とも産地残量が少なく、気温高と降雨の影響もあり、旬を追うごとに入荷量は急減した。月間の入荷量は茨城産、愛知産とも前年を大きく下回った。後続の長野産と群馬産は前進出荷気味で、前年と比べると入荷量は増加したが、全体では前年を大幅に下回り、平年をかなりの程度下回った。 高温と降雨の影響は品質低下を招き、入荷量が少なくなる中でも価格は伸び悩んだ。月間では前年をかなりの程度下回り、平年比を大幅に下回った。
	ほうれんそう	岐阜産が中心となる入荷であった。生育順調で出荷のピークを迎え、入荷量は多い状況が続いたが、旬を追うごとに減量傾向となった。他産地は、気温高の影響からほとんど入荷がなかった。月間全体の入荷量は、前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、引き合いが強く堅調に推移し、月間では前年、平年ともかなりの程度上回った。
	ねぎ（白ねぎ）	茨城産と鳥取産が主体となる入荷であった。各産地とも全旬を通して安定した潤沢な出荷が続き、入荷量も多く、月間全体では前年を大きく上回った。 一定の需要があり、価格は安定推移して、月間では前年をやや上回った。
	ねぎ（青ねぎ）	青ねぎは、徳島産が中心となり、高知産や愛媛産、近隣の奈良産などの入荷があった。細ねぎは、高知産が中心となる入荷であった。入荷は順調であったが、気温高と降雨の影響により品質低下を招き、下位等級品の比率が高い入荷となった。月間全体の入荷量は、前年をやや上回った。 価格は、品質低下から伸び悩み、月間では前年を大幅に下回った。
	レタス類	玉レタスは長野産が中心となる入荷であった。産地の出荷調整もあり、上・中旬の入荷量は前年をかなり下回ったが、旬を追うごとに入荷が増量し、下旬には順調な入荷となった。しかし月間では前年を下回った。サニーレタスは長野産が中心となる入荷で、産地出荷は順調で量販店からの発注が多く、引合いが強まったことで旬を追うごとに増加し、月間では前年をかなり上回った。リーフレタスも長野産が中心となる入荷であった。加工用関係からの発注が少なく需要は低迷し、入荷量も全旬を通して少ない状況が続いた。月間入荷量は、前年をかなり下回った。レタス類全体では前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、玉レタスは出荷調整による価格維持から高値で推移した。サニーレタスは前年並みで、リーフレタスは安値だった前年をかなり上回った。全体では前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに下回った。

果菜類	きゅうり	宮崎産と福島産が主体となる入荷に、高知産の残量入荷などがあった。高知産など切り上がりが早く入荷減量となった産地もあったが、後続の福島産は順調にスタートし、安定入荷となり、月間では前年を大幅に上回った。しかし月間全体の入荷量は前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。 気温高の影響や食品全体の値上がりのイメージを軽減し、需要喚起するため、量販店での特売需要が多く、不足感からも価格は高値で推移した。月間では前年を4割以上上回り、平年を3割上回った。
	なす	千両系は、高知産と大阪産が主体となり、京都産などの入荷もあった。長なすは、福岡産と熊本産が主体となる入荷であった。残量の切り上がりが早く、高知産は下旬に急減し、福岡産や熊本産は中旬以降に減少、後続産地は出遅れ気味であり、入荷量は伸び悩んだ。月間全体では前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。 価格は、気温高もあり一定の需要がある一方、入荷量が少なかったため、月間では前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度上回った。
	トマト	愛知産を中心として、熊本産、石川産も主体となる入荷であった。夏秋産地が着色遅れから出遅れて、上旬の入荷量が少なく、中旬以降は微増傾向となったが、月間全体では、前年をわずかに下回り、平年並みであった。 価格は、全旬を通して安定しており、後続産地の遅れから旬を追うごとにわずかに上昇傾向ではあったが、月間では前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度上回った。
	ピーマン	高知産と宮崎産が主体となる入荷であった。作の終盤で産地残量が少なく、旬を追うごとに入荷減量となった。月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年並みであった。 価格は、不足感がある中で気温高による引き合いも強まり、中旬以降に高騰し、月間では前年、平年ともに2割程度上回った。
土物類	さといも	鹿児島産が中心となる入荷であった。新規の離島ものの入荷が多く、旬を追うごとに入荷増量となった。輸入の中国産の入荷もあり、前月までの国産の不足感を補うため、業務用関係を中心に引き合いがあり、月間の入荷量は前年をかなり上回った。月間全体の入荷量は、前年を6割程度上回り、平年をかなり大きく上回った。 全体的に不足感が続いていたため、国産の入荷開始に伴い上旬の価格は高騰した。入荷増量に伴って旬を追うごとに急落が続いたものの、月間の価格は前年を2割以上上回り、平年を4割弱上回った。
	ばれいしょ	丸芋、メークインとも長崎産が中心となる入荷であった。丸芋の産地出荷は順調で、全旬を通じて潤沢な入荷となり、月間の入荷量は前年を大幅に上回った。メークインも順調な出荷と思われたが、現地での傷みが出るなど品質低下の影響があり、入荷量は伸び悩んだ。ばれいしょ全体では、前年を2割以上上回り、平年をやや下回った。 価格は、需要が少なく厳しい販売状況が続き、旬を追うごとに下落し、下旬には急落したことから、月間では前年を5割以上下回り、平年を2割以上下回った。
	たまねぎ	兵庫産が中心となり、佐賀産などの入荷もあった。兵庫産は、生育自体は順調で大玉傾向であったが、降雨の影響により、たまねぎの収穫作業に加え、水稲の田植え作業が2週間程遅れ、中旬以降の出荷量が少なかったことから、入荷量が急減した。下旬の入荷量は前年を5割以上下回り、月間でも前年を大幅に下回った。月間全体の入荷量は、前年、平年ともかなり大きく下回った。 価格は、入荷量が少ない中でも、高値だった前年を大幅に下回り、平年をやや上回った。

（執筆者：東果大阪株式会社　新開　茂樹）

（参考）　指定野菜の卸売価格の推移（東京都中央卸売市場）

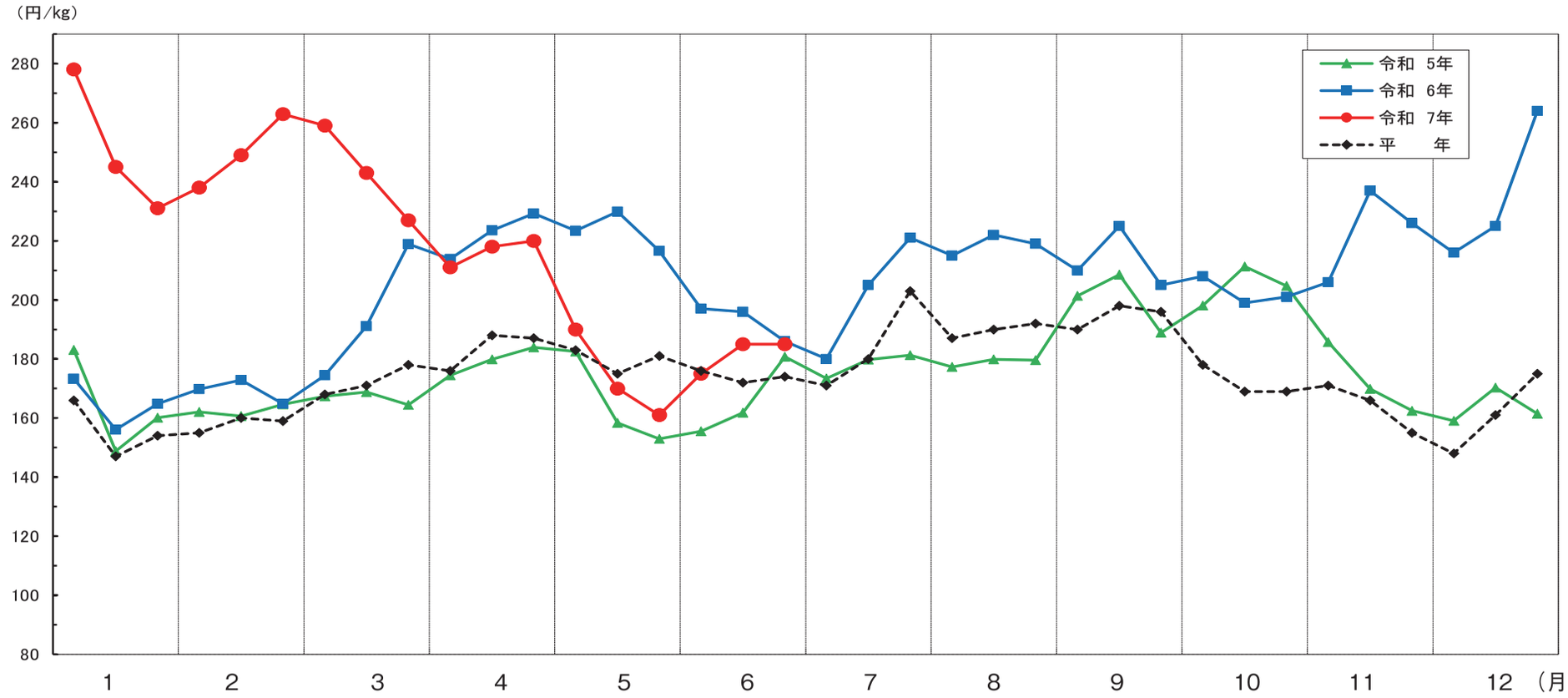


（単位：円／kg）

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
令和５年	208	173	188	189	195	193	196	190	189	194	200	200	198	177	168	171	183	203	194	193	186	188	189	199	224	239	216	231	241	216	190	174	175	175	189	184
令和６年	188	180	188	195	202	204	210	230	255	251	249	247	240	245	233	212	210	191	193	206	221	223	232	228	240	253	231	231	227	215	215	244	243	245	252	295
令和７年	306	279	261	257	274	285	290	270	253	236	236	235	212	205	191	196	206	199																		
平　　年	193	173	180	181	187	186	195	196	205	201	208	205	207	195	199	195	192	189	189	194	202	200	206	208	212	221	209	203	191	182	182	174	168	163	179	200

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注１：平年とは、過去５カ年（令和２年～６年）の旬別価格の平均値である。
注２：豊洲市場、大田市場、豊島市場、淀橋市場の４市場のデータである。

（参考）　指定野菜の卸売価格の推移（大阪市中央卸売市場）



（単位：円／kg）

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
令和５年	183	149	160	162	161	165	167	169	165	174	180	184	182	158	153	155	162	181	173	180	181	177	180	180	201	209	189	198	211	205	186	170	162	159	170	161
令和６年	173	156	165	170	173	165	174	191	219	214	224	229	223	230	217	197	196	186	180	205	221	215	222	219	210	225	205	208	199	201	206	237	226	216	225	264
令和７年	278	245	231	238	249	263	259	243	227	211	218	220	190	170	161	175	185	185																		
平　　年	166	147	154	155	160	159	168	171	178	176	188	187	183	175	181	176	172	174	171	180	203	187	190	192	190	198	196	178	169	169	171	166	155	148	161	175

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注１：平年とは、過去５カ年（令和２年～６年）の旬別価格の平均値である。
注２：大阪本場及び大阪東部市場のデータである。